



令和7年度 学校経営方針～登別小の教育～

I 学校経営の基底

1 学校経営の基底

【目指す学校像】

- 子ども一人一人のよさや可能性を引き出す学校
- 温かな人間関係で思いやりの心にあふれる学校
- 安全・安心で、家庭や地域から信頼される学校



【学校教育目標と目指す子ども像】

『丈夫な体と豊かな心をもって、意欲的にたくましく生きる子』

- よく考える子（知）・・・・・・・・自分の考えをもち、進んで表現し深める子
- 体をきたえる子（体）・・・・・・・・健康な心と体を目指し、生き生きと生活する子
- なかよく助け合う子（徳）・・・・まわりを大切にし、思いやりの心をもつ子
- がんばりぬく子（意）・・・・・・・・粘り強く課題に取り組み、最後までやり抜く子

【目指す教員像】

○「令和の日本型教育」を踏まえた新しい時代における教育の素養をもった教員

- ・社会的役割やサービスを理解し、時代や変化に合わせて自律的に学び続ける教員
- ・円滑なコミュニケーションを取り、良好な人間関係を構築できる教員
- ・他者との協力や関わり、連携協働を通じて課題を解決しようとする教員
- ・子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たそうとする教員
- ・子どもの生命や心身の健康を守るために、危機管理の知識等を備えている教員

○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、学習者中心の授業を創造できる教員

- ・カリキュラムマネジメントを理解し、教育課程や授業の改善ができる教員
- ・興味関心をもとに、子どもの自律した学びを創り上げることができる教員

○子ども一人一人の特性やよさ、可能性に目を向け、伸ばそうとする教員

- ・子どもの悩みや思いを共感的に受け止め、子どもの成長を援助できる教員
- ・子どもとの信頼関係を構築し、よさや可能性を引き出す集団づくりができる教員

○特別な配慮や支援を必要とする子どもへの合理的配慮や支援ができる教員

○ICTを効果的に活用し、子どもの情報活用能力等の育成ができる教員

II 学校教育目標、育成すべき資質・能力、学校課題

1 学校教育目標

『丈夫な体と豊かな心をもって、意欲的にたくましく生きる子』

- よく考える子（知） ○からだをきたえる子（体）
○なかよく助け合う子（徳） ○がんばりぬく子（意）

2 育成すべき資質・能力

※令和4年度実施の教職員、保護者アンケートに基づき設定

	よく考える子 (知)	からだをきたえる子 (体)	なかよく助け合う子 (徳)	がんばりぬく子 (意)
知識・技能の 習得	学びを日常に生か したり関連付けた りする子	健康について理解 する子	適切な行動につい て理解する子	自らの課題を理解 する子
	○基礎的な知識・技能 ○物事の間係を捉える力 ○知識を生かす力			
思考力・判断 力・表現力の 育成	課題発見・見通し・ 解決したり、表現し たりする子	健康な生活のため に計画を立て実行 する子	自他のよさを認め たり、生き方につい て考えを深める子	課題解決に向かっ て考え、粘り強く取 り組む子
	○問題を発見したり、課題を認識したりする力 ○自分の学びをデザインする力（自己調整力） ○様々な方法で自分の思いを伝える力（コミュニケーション力・記述力・説得力）			
学びに向か う人間性の 涵養	主体的な学びを通 し、他と協働する子	健康で活力のある 自律的な生活を日 常化する子	共生を目指し様々 な他者と協働する 子	自らの課題解決を 継続する子
	○互いのよさを認め協働する力 ○粘り強くやり抜く力 ○多様性を認める力			

3 現状と学校課題

(1) 学校教育の現状

- ・現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、資質・能力の育成を目指し「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を求めている。また、GIGAスクール構想による一人一台端末の活用が図られ、令和3年には令和の日本型教育として「個別最適な学びと協働的学び」の一体的な充実を通して、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善が進められている。

- ・いじめ対応や不登校対策など多様化・複雑化している様々な課題に対して、より一層組織的な対応が求められている。また、誰一人取り残されず、全ての子どものよさや可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育を目指し、インクルーシブ教育システムの推進による多様な教育ニーズへの対応が進められている。

(2) 地域の実態

- ・自然環境に恵まれ、四季を通じて自然の恩恵を受け木々や緑に囲まれている。校舎裏側に登別川（アイヌ語でヌプル・ベツ）が流れ、小鳥をはじめ動物のすみかになっている。また、登別駅を中心に行政施設や商業施設もあり、生活科、社会科、理科、総合的な学習の時間等に活用できる教育資源に恵まれている。
- ・保護者や地域住民の学校教育への関心は高く、PTA活動、登別中学校区地域協議会、町内会を含む地域の青少年健全育成に関わる活動が比較的活発に行われている。
- ・平成19年度より登別温泉小学校と校区が一体化し、学校を中心とした本町地区、富浦地区に加え、登別温泉地区、中登別地区、カルルス地区が校区に入り、半径にして約15kmの範囲が校区となっている。

(3) 保護者の願い（令和4年度実施の保護者アンケートより）

①児童に身に付けさせたい力	②教育活動で重要なと思うこと
・人間関係を築く力・・・67.0%	・豊かな心の育成・・・83.5%
・自分の考えを表現する力・・・58.3%	・体力向上・・・60.0%
・各教科の基礎的な力・・・52.4%	・学力向上・・・58.3%
・善悪を判断する力・・・52.4%	・いじめ対策・・・53.4%
・自ら学ぼうとする意欲・・・52.4%	・安心・安全な学校づくり・・・53.4%
・物事を粘り強くやり抜く力・・・44.7%	・各種行事の在り方・・・18.4%
・社会生活に必要な常識・・・35.9%	・伝統行事の継承・・・12.6%
・地域を愛する・・・8.7%	・情報発信・情報公開・・・10.7%
・基本的な生活習慣・・・2.9%	・地域との協働・・・9.7%
・伝統を継承する力・・・2.9%	・教員の働き方・・・6.8%

※多くの保護者が豊かな心の育成や人間関係を築く力の育成を重要視していることが伺われる。

(4) 児童の実態

①主に生活面

【令和6年度後期児童・保護者アンケートより ○：成果 ▼：課題】

- 「学校は楽しいですか」（児童：93.9% 保護者：98.3%）
- 「思いやりや優しい気持ちで周りの人と過ごしていますか」（児童：96.2%）
- 「心豊かで自他の違いを認め合える学級づくりに取り組んでいますか」（保護者：98.3%）
- 「地域の人たちにきちんとあいさつしていますか」（児童：93.1%）
- ▼「家でゲームやスマホ、テレビの時間（2時間以内）」（児童：67.9% 保護者：68.7%）
- ▼「電子メディアの使用時間や使い方の約束を守っていますか」（保護者：68.7%）
- ▼「普段一日あたりどれくらい読書していますか（10分以上）」（児童：71.8% 0分：9.9%）

②主に学習面

【令和6年度後期児童・保護者アンケートより ○：成果 ▼：課題】

○「先生の勉強の教え方はよくわかりますか」（児童：99.2%）

・「授業はおおむね理解できていますか」（保護者：82.7%）

○「授業中、友達と話し合うことで考えを広げられますか」（児童 93.9%）

○「タブレットを使った勉強は楽しいですか」（児童 95.4%）

○「国語や算数ではどこを気を付けてよいか考えて読んでますか」（児童 94.7%）

▼「自分の思っていることなどを言葉にして話すことができますか」（児童：80.2%）

▼「家でどのくらい勉強（学年×10分以上）をしていますか」（児童：74.8% 保護者：67.8%）

【令和6年度全国学力・学習状況調査より（6年生） ○：成果 ▼：課題】

○国語では、情報の扱い方に関する事項の正答率が全国平均より高い。

▼国語では、事実と感想、意見とを区別して自分の考えを書き表すこと、物語文を注意深く読み人物像を捉えることに課題が見られる。

▼算数では、必要な数量やその関係を正しく表すこと、データの読み取りに課題が見られた。

【令和6年度標準学力調査より（2～5年生） ○：成果 ▼：課題】

○どの学年も主体的に取り組む態度の項目が全国平均より概ね高い。

▼国語も算数も学年差（個人差）が大きい。

▼国語では、主に「書くこと」の内容に課題が見られる。

▼算数では、主に「図形」の領域に課題が見られる。

③主に体力面

【令和6年度後期児童・保護者アンケートより ○：成果 ▼：課題】

○「すすんで体を動かしたり運動したりしていますか」（児童：87.0% 保護者 98.3%）

【令和6年度全国体力・運動能力調査（5年生）、新体力テストより ○：成果 ▼：課題】

○運動が好きな子、運動を大切だと感じている割合は全国平均より多い。

○長座体前屈、上体起こし、反復横跳びは、全国平均より高い学年が多い。

▼体力合計点は、全校平均より低い学年が多い。（男子：0/6 学年 女子：2/6 学年）

▼50m走は、全国平均より全学年が低い。（3年連続）

(5)分析（学校課題）

- ①学習習慣も含め生活習慣の改善が必要である。特に電子メディアに関する課題が経年で続いている。児童への効果的な指導、家庭との連携強化、情報モラル教育の充実等が必要である。
- ②学習面は基礎的な知識・技能も含め思考力・表現力・判断力の確実な育成を目指し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が今後も必要である。
- ③自分の思いや考えを表現する力（書くことも含めて）が不十分であり、苦手と感じている子も多い。今後も全教育活動で対話や話し合いなど表現する場を意図的に設定する必要がある。
- ④走力等の特定の体力要素が経年で課題である。今後も体育科の授業の充実や日常の体力づくりの取組の充実が必要である。
- ⑤特色ある教育活動（マーチングバンド、すもう学習など）の維持継続にあたって、教職員の負担になっている面がある。効率的・効果的な取組が必要である。

Ⅲ 令和7年度 学校経営方針（経営の重点）

1 令和7年度の経営の重点（重点目標）

自分の未来を自律的に切り拓く子の育成

～ 一人一人のよさや可能性を引き出す教育活動の推進 ～

将来の予測困難なV C U Aの時代（V：変動性 C：複雑性 U：不確実性 A：曖昧性）の中でも、将来にわたって豊かで幸せに生きることが望むことは変わらない。令和5年6月に第4期教育振興計画（令和5年度～令和9年度）が公表された。その計画のコンセプトは、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」である。未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて持続可能な社会を維持し発展させていくことと、多様な個人がそれぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることを目指している。

そこで、本年度は、子ども一人一人の思いや願いを共感的に受け止め、そして寄り添い、その子のよさや可能性を最大限に引き出す学校づくりを目指す。その中で、自分の生活や学習を主体的に自己調整できる（自律）子どもを育てることを重点とし、学校、家庭、地域が一体となって、学校運営や教育活動、教育環境の充実や工夫に努める。

2 学校経営のキーワード

- ① **共生**：様々な考え方や多様な人との交流や連携を通して、多様性を尊重し活かしていく（ダイバーシティ&インクルージョン）社会を構築する力を身に付けさせたい。
- ② **協働**：他との協働の経験を通して、自らの考え方や生き方を調整する力を身に付けさせたい。他とのつながりを意識し日本版ウェルビーイングに向けた力を身に付けさせたい。
- ③ **表現**：表現活動を通して、他とのかかわりを学ぶ力を身に付けさせ、自分の考えを広げたり、深めたりさせたい。これらの活動を通して自己肯定感の高揚を目指したい。
- ④ **継続**：何事に対しても粘り強く継続して取り組む力を身に付けさせ、努力することの大切さを実感させたい。

※学校教育目標、目指す子供像と学校経営のキーワードとの主な関連

- よく考える子（知）：自分の考えをもち、進んで表現し深める子・・・ **表現**
- からだをきたえる子（体）：健康な心と体を目指し、生き生きと生活する子・・・ **継続**
- なかよく助け合う子（徳）：まわりを大切にし、思いやりの心をもつ子・・・ **共生**・**協働**
- がんばりぬく子（情）：粘り強く課題に取り組み、最後までやり抜く子・・・ **継続**

※登別中学校の目指す生徒像と学校経営のキーワードとの主な関連

- 自分の考えを深め、表現できる生徒・・・ **表現**
- 自他を大切にし、思いやりをもつ生徒・・・ **共生**・**協働**
- 何事にも挑戦し、やり抜く生徒・・・ **継続**

Ⅳ 令和7年度 学校経営上の重点

1 学校教育目標等の具現化の推進と心理的安全性に基づく協働体制の確立

- (1) 学校教育目標・経営方針等の共有化と実践における具現化の推進（ゴールイメージの共有）
- (2) 教職員一人一人の能力や強みを生かし、参画意識を高める経営の推進（自走する組織）
- (3) PDCA、TECA（トライ・エラー・チェック・アクト）等の短期サイクルによる重点事項の確実な実施
- (4) 学校評価、各種調査等の分析による成果と課題の共有化と改善（エビデンスの有効活用）
- (5) 報告・連絡・相談・確認・記録の徹底による業務の組織的・協働的な遂行（服務規律の徹底）

2 社会に開かれた教育課程の実現と児童の主体的な学びを目指す教育の充実

- (1) 社会との連携・協働を図った創意と調和のあるカリキュラム・マネジメントの確立
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した組織的な指導体制や教育環境の充実
- (3) ICT機器の効果的な活用による知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力の育成
- (4) 児童一人一人が自立・自律した学習者となるための指導方法の確立と充実（自己調整力）
- (5) 「ふるさと登別」を知り、地域から学び、地域とつながる特色ある教育活動の推進

3 自立・自律・共生を目指す豊かな心と健やかな体を育む教育の充実

- (1) いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期解決など、組織的・意図的・継続的な取組の推進
- (2) 自らの行動を決断し、実行する力である「自己指導能力」の育成を目指した取組の推進
- (3) 互いの違いを認め、支え合い、児童相互の共感的な人間関係を育む学級経営の充実
- (4) 特別支援教育COを中心とした全教職員による組織的で一貫した教育支援体制の確立
- (5) 健康増進や体力向上を目指した保健体育指導の充実と望ましい運動習慣の確立

4 専門職として学び続ける教員の資質向上を図る研修の充実

- (1) 主体的な学びを目指した個別最適な学び等の指導方法の工夫改善に関わる授業研究の推進
- (2) 現代的な諸課題への対応等を共に学び合い、深め合う実践的な校内・校外研修の推進
- (3) 特別な教育的支援を必要とする児童の理解と対応の仕方に関する研修の推進
- (4) 教職員一人一人の主体的・継続的・協働的な学びの推進（研修の記録化：研修履歴の活用）
- (5) 信頼される学校づくりの維持・継続を目指した服務規律の徹底と人権意識や倫理観の醸成

5 家庭・地域・関係機関と連携・協働した信頼される学校運営の推進

- (1) 児童自ら適切な対応ができることを目指した地域等と連携した安全、防災、防犯教育の推進
- (2) 地域・関係機関等と連携したふるさと教育の推進（地域の人的・物的資源の効果的な活用）
- (3) 学校運営協議会（CS）や地域学校協働本部を積極的に活用した学校運営や教育活動の推進
- (4) 家庭・地域等と連携した望ましい生活（運動）・学習（読書）習慣の確立に向けた取組の推進

6 接続・連携・協働を意識した異校種・同校種間連携の推進

- (1) 幼保小との連携を図った相互参観や教職員や子どもの交流等の取組の推進（幼保小連携）
- (2) 登別中校区との連携を強化し、共通の重点取組事項に基づいた取組の推進（小中一貫教育）
- (3) 登別中学校の統合を見据えた幌別小学校・幌別中学校との連携の推進

7 効果的で質の高い教育活動の持続に向けた学校における働き方改革の推進

- (1) 教育活動の質の向上を目指した業務内容の効率化・平準化・適正化による業務改善の推進
- (2) 「協働性」と「働きがい」を高めるためにボトムアップを図った実効性のある取組の推進
- (3) コアチームを中心とした全教職員による学校運営の組織的・機動的な学校改善の推進

V 令和7年度 教育活動における指導上の重点

【重点取組1】「自分の考えをもち、進んで表現し深める子の育成」(知)《表現》

「粘り強く課題に取り組み、最後までやり抜く子の育成」(意)《継続》

(1) 児童の主体的な学びを目指した日常的な授業改善(自立・自律した学習者)

- ①誰もが「わかる」「できる」「表現する」を目指した授業の充実を図る。(授業のUD化)
- ②言語能力の育成を目指した言語活動の充実を図る。(全教科、全領域で「表現力」の育成)
- ③自分で考え、決めて、自己の学びを調整する学習活動を展開する。(自立・自律した学び)
- ④ICTの効果的活用による「個別最適な学習」と「協働的な学習」の一体的な充実を図る。
- ⑤校内研修と連動した日常的な授業改善の取組の充実を図る。(単元をデザインする)

(2) 学力調査結果等を生かした基礎・基本の確実な習得(資質・能力の向上)

- ①学力調査結果等から課題を明確にし、組織的な改善につなげる。(学力向上プラン策定と実施)
- ②課題が見られた学習内容等を重点単元とし確実な定着につなげる。(教育課程の改善)
- ③学習内容の定着度をもとに個に応じた指導と評価の一体的な充実を図る。(学習履歴の活用)
- ④基礎・基本の定着のために「繰り返し学習」を工夫する。(朝学習・家庭学習との連動)

(3) 学習習慣の確実な定着と努力し続ける力の育成(自己調整力の育成)

- ①ICTを活用した学習習慣の把握と目標設定と振り返りを重視する。(家庭学習チェックシート)
- ②授業と連動を図った家庭学習の内容を工夫し、学習習慣の定着を図る。(AIドリルの活用)
- ③主体的な学びのために予習型家庭学習、調べ学習、読書を推進する。(読書指導の充実)

【重点取組2】「まわりを大切にし、思いやりの心をもつ子の育成」(徳)《共生・協働》

「粘り強く課題に取り組み、最後までやり抜く子の育成」(意)《継続》

(1) 特別支援教育の視点を生かした組織的な指導や支援の充実を図る。(特別支援教育の充実)

- ①特別な支援を必要とする児童への切れ目のない一貫した教育支援体制の確立を図る。
- ②多様性を尊重する態度の育成を目指し、インクルーシブ教育の充実を図る。(合理的配慮)
- ③共感的な児童理解のもとに自己存在感や自己有用感を伸ばす指導を推進する。(自己肯定感)
- ④一人一人のよさを発揮させるために「認める」「ほめる」「励ます」などの指導を重視する。
- ⑤教育相談や児童アンケートを通して、個々の困り感や不安を解消する。(積極的な生徒指導)

(2) 児童の思いやりの心を育み、望ましい人間関係の確立(思いやりの心の育成)

- ①児童相互が支え合う風土と互いに思いやれる人間関係を醸成する。(学級経営の充実)
- ②自律性や社会性を養い、規律ある集団行動の定着を図る。(社会的資質・能力の育成)
- ③自分の言動を見つめ直すために定期的な振り返りを重視する。(キャリア教育との連動)
- ④児童主体のいじめ防止のための取組の充実を図る。(ピンクシャツデーの取組継続)
- ⑤SOSの出し方に関する教育を進めるとともに、相談・支援体制を確かなものにする。

(3) 豊かな心を育む活動及び道徳教育の充実(価値ある体験と実感の重視)

- ①想像力や思考力を育む読書活動の充実と読書習慣の定着を図る。(読書通帳の取組継続)
- ②本物に触れる、本物で学ぶ、豊かな体験活動の充実を図る。(地域探究活動、地域交流活動)
- ③自己の生き方を考え、自己に生かす道徳教育の充実を図る。('考える' '振り返る' の重視)

【重点取組 3】「健康な心と体を目指し、生き生きと生活する子の育成」(体)《継続》
「粘り強く課題に取り組み、最後までやり抜く子の育成」(意)《継続》

(1) 自己の健康や体力の関心を高める保健体育の推進（健康増進と体力向上）

- ①課題である走力等の向上に向けた体育授業や体力づくりを工夫する。。
- ②新体力テストを複数回実施するなど、全学年で計画的に取り組む。
- ③体育の授業の準備運動として新体力テストの種目を取り入れ、通年で取り組む。
- ④体力向上の取組の見える化など、児童にとって実感の伴った体力づくりを工夫する。
- ⑤自らの体力向上や技能への意識高揚のため体育コーディネーターの効果的な活用を図る。

(2) 健康を意識した規則正しい生活習慣の確実な定着（自己調整力の育成）

- ①登別中と連携した「アウトメディア読書デー」の取組を継続する。
- ②メディア時間を自分でコントロールできるように家庭と連携した取組を工夫する。
- ③「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨と望ましい生活習慣の定着を図る。（十分な睡眠時間）

(3) 健康意識の向上を目指した保健指導の充実（自分の体を知る）

- ①学校歯科医と連携した歯と口の健康づくりの取組を継続する。
- ②各種データを基にした健康推進に向けた取組を工夫する。
- ③栄養教諭等と連携した食育指導の充実を図る。（家庭科、学級活動との連携）

【重点取組 4】「家庭・地域等との連携を図った教育活動の充実」《共生・協働》
「粘り強く課題に取り組み、最後までやり抜く子の育成」(意)《継続》

(1) 郷土への愛着を育むふるさと学習の推進（地域を知り、地域とつながる）

- ①地域をテーマにした探究的な学習（ふるさと学習）の充実を図る。（地域を学ぶ）
- ②地域の人的・物的な資源を有効活用した体験的な学習の充実を図る。（地域から学ぶ）
- ③地域とともにある特色ある教育活動の改善と充実を図る。
 - ・おにっこマーチングバンド（OMB）【4～6年生】
 - ・すもう学習（すもう秋場所）【1～3年】
 - ・スキー学習（スキー遠足）【全学年】

(2) 家庭・地域と連携を図った望ましい学習習慣と生活習慣の確立（生活リズムの改善）

- ①家庭と連携して自己調整しながら進める家庭学習を目指した取組を工夫する。
- ②家庭と連携して望ましい生活習慣（メディア時間も含む）の改善に向けた取組を推進する。
- ③家庭と連携して運動習慣や読書習慣の定着を目指した取組を推進する。

(3) 家庭・地域・関係機関と連携を図った安全・防犯・防災教育の推進（安全意識の向上）

- ①関係機関等と連携して安全意識を高める交通安全教室、防犯教室等の充実を図る。
- ②関係機関等と連携して危機対応能力を養う各避難訓練、防災教室等の充実を図る。
- ③家庭等と連携して情報モラル教育、メディアリテラシーの指導の充実を図る。

VI 令和7年度 成果目標

【重点取組1】「自分の考えをもち、進んで表現し深める子の育成」《表現》

項 目	達成基準（各種調査、アンケートから）
①児童の主体的な学び 日常的な授業改善	○児「先生の勉強の教え方はよくわかる」90%以上（R6 後 99.2%） ○保「お子さんは授業を理解できている」90%以上（R6 後 82.7%） ○児「自分の考えをもち友達と話し合う・・・」90%以上（R6 後 93.9%）
②基礎・基本の確実な習得	○全国学力調査正答率全国平均－3%以内（R6 国：－8% 算：－5%） ○標準学力調査正答率全国平均－3%以内（R6 国：3/4 学年 算：2/4 学年）
③学習習慣の確実な定着	○児「家で学年×10 分以上勉強している」80%以上（R6 後：74.8%） ○保「お子さんは家で学年×10 分以上勉強」80%以上（R6 後：67.8%）

【重点取組2】「まわりを大切にし、思いやりの心をもつ子の育成」《共生・協働》

項 目	達成基準
①特別支援教育の視点 組織的な指導・支援	○児「学校は楽しいですか」90%以上（R6 後 93.9%） ○保「おこさんは学校生活を楽しく・・・」90%以上（R6 後 98.3%） ○児「自分にはよいところがありますか」90%以上（R6 後 89.3%）
②思いやりの心の育成 望ましい人間関係	○児「思いやりや優しい気持ちで周り・・・」90%以上（R6 後 96.2%） ○児「いじめはどんなことがあっても悪いこと」100%（R6 後 100%） ○保「学校はいじめの未然防止等に取り組む」90%以上（R6 後 97.4%）
③豊かな心を育む活動 道徳教育の充実	○児「家でどれくらいの時間読書している」90%以上（R6 後 90.1%） ○保「心豊かな活動、道徳教育、読書活動・・・」90%以上（R6 後 98.3%）

【重点取組3】「健康な心と体を目指し、生き生きと生活する子の育成」《継続》

項 目	達成基準
①健康や体力の関心を 高める保健体育	○新体力テスト体力合計点前年度の全国平均以上（R6 男子：0/6 女子：2/6） ○児「進んで体を動かしたり運動したり・・・」90%以上（R6 後 87.0%） ○保「学校は健康や体力づくりの取組・・・」90%以上（R6 後 98.3%）
②健康を意識した 規則正しい生活習慣	○児「早寝早起きなど規則正しい生活・・・」90%以上（R6 後 87.0%） ○児「ゲーム、スマホなど2時間以内・・・」80%以上（R6 後 67.9%） ○保「電子メディアに触れている時間・・・」80%以上（R6 後 68.7%）
③保健指導の充実	○児「朝と寝る前に歯みがきをしている」90%以上（R6 後 96.9%） ○保「朝晩の歯みがきが身に付いている」90%以上（R6 後 79.1%）

【重点取組4】「家庭・地域等との連携を図った教育活動の充実」《共生・協働》

項 目	達成基準
①ふるさと学習の推進	○教「児童や地域の実態に基づいた教育課程」90%以上（R6 後 76.6%）
②家庭・地域と連携を図った望ましい生活習慣	○保「学校から家庭への情報伝達と共有化・・・」90%以上（R6 後 96.5%） ○児「地域の人などにきちんとあいさつ・・・」90%以上（R6 後 93.1%）
③家庭・地域と連携を図った安全指導	○教「家庭や地域と連携して安全指導の充実・・・」90%以上（R6 後 83.3%）